

大田原文化



第30号
大田原文化協会
令和3年度

目次

一	ごあいさつ	大田原文化協会会長	田中 和夫	1
二	ゲタ箱展について	大田原市芸術文化研究所長	日原 公大	2
三	文芸部	大田原短歌会	藤沼緋紗子	5
		大田原俳句会・風の会句会	古川 忠利	7
		俳句部門		
		秋桜の会	森 加名恵	8
		秋桜の会	上田 耕里	9
四	美術部	美術部長	安達 信悟	10
		第三十六回大田原文化協会美術展		
		絵を描くこと	前島 恒夫	12
		令和三年度の報告	蜂巢 貞美	13
		『健康寿命百年』『虎(寅)ブル防止』	君島 真二	14
五	ステージ部	大田原盆踊り唄保存愛好会	石井小夜子	16
		遊月流吟舞会恵月会	三浦 恵月	17
		剣詩舞道は如何?		
		ステージ部門活動報告	花柳喜乃治	17
		盆栽園芸部門	盆栽・園芸部長	
六	盆栽園芸部	盆栽・園芸部長	平山 正彦	20
七	囲碁将棋部	大田原市将棋愛好会	矢板 清勝	22
八	茶道部	茶道部	瀬尾 清子	22
九	文化協会事務局より	大田原市将棋愛好会	事務局長	23
十	編集後記	茶道部	事務局	23
		題字	古川 忠利	24
		書家		
		酒井真沙		
		表紙		
		ステージ部		

いあいさつ

大田原文化協会

会長 田中 和夫



昨年(木)の十二月九日、栃木県公館において、第七十五回栃木県芸術祭の表彰式が開催されました。

詳しいことは省略しますが、大田原市に関わる被表彰者を紹介します。

まずは、俳句の部で、森加名恵さんが文芸奨励賞を受賞されました。

吟詠剣詩舞の部では、大田原市を含む北部地区協議会が準芸術祭賞でした。

また、民舞の部で大田原文化協会のステージ部有志がやはり準芸術祭賞を受賞しました。

もっと色々な部門で、大田原の方々が活躍されることを期待しております。

大田原市芸術文化研究所の日

原公大所長が栃木県文化協会の副会長を務められており、開会の挨拶をされた事を大田原市民として誇らしく思いました。

日原先生には、今回の広報紙に特別寄稿を頂いております。



一昨年度の芸術祭は新型コロナウイルス感染症の影響により、舞台部門、展示部門共に活動を自粛せざるを得ない状況でした。

昨年度は一昨年度よりも幾分か状況が改善しているかに見え、それなりに展示会や舞台発表も少しずつ再開されたところではありましたが、年が明けると同時に、また爆発的に感染者が増えています。いったい何時になったら、この長いトンネルを抜ける事ができるのでしょうか。そろそろ、コロナウイルスとの共生を前提に、物事を進めていくことを考えなければならぬ時期に来ているのでしよう

か。

この稿を書いている時点で、栃木県に「まん延防止等重点措置」が適用されました。

不要不急の外出をやめましようとうと声高に叫ばれています。文化・芸術は不要不急の物なのでしょうか。私は、体に栄養が必要ないように、心にも栄養が必要だと考えています。

宗教や読書などはもちろんですが、音楽や演劇・舞踊、あるいは絵画や書・彫刻などの美術、短歌・俳句・詩などの文芸、そして将棋・囲碁・盆栽など、まさしく我々文化協会のメンバーが関わっている事柄こそ、心に栄養を与えてくれるものではないでしょうか。

芸術・文化に携わっている方にお願致します。どうかコロナ禍を理由に止めてしまわず十分な対策を講じたうえで、活動を進めて下さい。



私の手元に、平成五年三月発行の「大田原文化」創刊号があ

ります。

当時の会長は赤津健壽さんであり、『会報発刊に寄せて』という挨拶の中に、興味深い記述があります。

それは『芸能「那須与一」が創作され、盛んに演じられていたということ。構想した全てのものが完成した訳ではないと思われませんが、

「謡曲」「日本舞踊」「人形劇」「吟詠」「コーラス」「民謡」「餅つき唄」などで構成されていたようです。

その頃、市のマスコット「与一くん」はまだ誕生していませんでしたが、文化協会として「那須与一」で統一した舞台や作品を試みるのも面白いかもしれませんね。



大田原文化は今回、三十号という節目の発刊になります。

発刊のためにご尽力を頂きました編集部員の方々、また文化振興課の関係各位に感謝を申し上げます、ごあいさつと致します。

ゲタ箱展について

芸術文化研究所長

日原 公大

趣旨

大田原市芸術文化研究所は、統廃合された中学校の校舎跡を利用し二〇一三年に開所致しました。翌年二〇一四年に中学生が利用した靴箱を使用してゲタ箱展と銘打って展示を開始したのです。出品条件は平面、立体を問わず、高さ28cm×幅20cm×奥行30cmに入るサイズの美術作品を全世界から募集し、飾ります。

この展覧会の特記すべき大きな特徴は「鑑賞者が下駄箱という小宇宙に飾られている作品を眺め、手に取り感触を確かめ、あらゆる五感で楽しみなながら、芸術の素晴らしさを体感する」というものです。



ゲタ箱上部



ゲタ箱から1階展示室

内容

昨年引き続き今年も、前代未聞の目に見えない敵に人類は脅かされています。さりとて、仕方がないと簡単に諦めてはいられません。何万年の昔から人類は様々な困難に遭遇してきたと思えます。

争いごと、自然災害、パンデミックなど繰り返し襲って来ましたが、それでも我々人類は消滅せずに現存しています。偶然が多分に左右するとは思いますが、人は心が負けた時に身体が崩れる種類の動物だと改めて感じています。

ゲタ箱展は今年で七回目を迎えます。昨年はウェブ上だけの開催を余儀なくされました。世界の芸術家の友人から作品を出品して頂き、現実には下駄箱の中にセツトして普段と変わらない展示をいたしました。しかし、変わったことと言えば会場に人が居ないという事でした。それ

でも、ウェブ上の展覧会に世界中の沢山の観客がアクセスをして、素晴らしい結果を残すことが出来ました。

二〇二一年こそは我々の抵抗する力が新型コロナウイルス感染症に勝ると思っていました。が、度々変異を繰り返す敵は依然として居座っています。

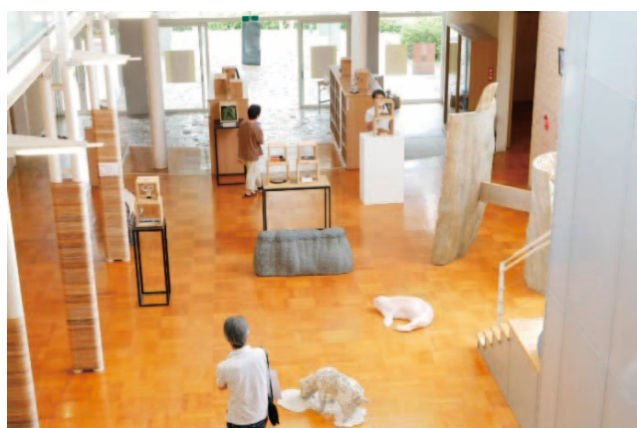
冒頭にも述べましたが、研究所職員は心が折れるどころか、撃退するための努力を惜しんでいません。心に弱気が忍び込まぬように絶えず前を向く気力を毎日育んでいます。

我々の仕事は作品制作をする事で観る人の情緒を刺激し免疫力を高め、生きる力を強くする作品を世に送り出すことなのです。

今回は、昨年にも増して世界から百十八人の趣旨に賛同した芸術家が喜んで参加をしてくれました。こんな時だからこそ、互いに助け合おうとする愛情を

一人に感じました。展示会場には例年に増して、力のこもった作品が下駄箱に並び、オンラインも併設して鑑賞者を待ちました。初日は朝早くから開催を待ちわびた熱心な人々が十分な感染防止対策をして研究所を訪れました。

そして、芸術作品に再会する喜びを噛み締めるかのように至福な時間は過ぎてゆきました。



開催期間

【期間】二〇二二年六月十九日
(土)～六月三〇日(水)

【時間】午前十時～午後四時

【総鑑賞動員数】約三百七十六人
(十二日間)

【オンラインアクセス数】

約五千四百二十四件

【感染防止対策】マスク着用、
手の殺菌消毒、密になる事の防
止、大声を出さない

終わりに

ゲタ箱展の開催動機は作家の
好意に頼り始めたものです。出
品料はもちろん有りませんが送
料、梱包などの諸経費は作家自
身が払い運営されています。美
術館で開催される様な展示では
無いので普段着の軽やかな気持
ちを小さな空間に持ち込んで欲
しいと出品をお願いしました。

その結果、個人的に所有した
いという声が多くなり、オーク
ション形式で願いが叶うように

いたしました。鑑賞者は芸術作
品を身近に置くことで、より深
く表現の意味を理解し、自分の
好みを納得して自己啓発の一助
になる事と思います。

気が遠くなるような話です
が、ゆつくりと心に染み入る芸
術は人間の中に充満すると、た
おやかな幸福の世界が必ず実現
できると信じて活動していま
す。(平成三十年栃木県文化
功労者)



短歌部門

大田原短歌会

藤沼 緋紗子

昨年に続き、新型コロナウイルス感染症に見舞われた一年でありました。コロナ禍で困難と不安の中、私たちに癒しと勇気、明日への希望を与えてくれたのが、文化活動であり、芸術であったと思います。

文化芸術活動は、決して不要でもなければ



不急でもなく、社会全体の健康や幸福を維持し、私たちが生きていく上で、必要不可欠なものであると考えています。

暫くは新型コロナウイルス感染症との共存になりますが、大田原の芸術や文化活動、「癒し」や「心の潤い」になっているものが衰えることなく続きますよう、また皆様のご健康、ご活躍を祈っております。

阿久津 照靖

コロナ禍の収まる気配見えずして

夏の盛りをマスクの子ら行く

履物を正しく揃え家中の

掃除すまして娘は帰りゆく

炬燵まで日のさして来る我が部屋を

妻と喜び冬を暮らせり

同じ事何度も言ふて我が妻の

認知症への道は深まる

風通し良き裏座敷我が部屋と

定め土用の日を送りゐる

磯 セツ

コロナ禍で一人で祝う屠蘇の膳

不安消すよな日の出を拝む

指先の乾いて折れぬ千羽鶴

千代紙だけがたまる引き出し

秋の陽をたつぷり浴し縁側で

心の疲れしづかに取りぬ

微笑めという卒寿の顔を撮る子等も

皆それぞれに髪の毛薄し

長嶋 禎子

素枯れたる庭にひっそり蠟梅が

咲き初めしるき香りを放つ

地鎮祭冷たき風は刺すように

衾宜の衣のしきりに揺るる

夏の陽が柔らかくなり涼風の

秋明菊をかすかに揺らす

雲一つ置かぬ青空さわやかに

穏しき光今日は立冬

大久保 和子

世界中コロナウイルスあふれいて
収束待たるる籠り居の我も

観葉の植物らに陽の射して

コロナ疲れの我を慰む

指折りてみそひとともに整える

想い詠み込み短歌はむづかし

庭隅に小さきあじさい香のたちて

雨に打たれてなほ美しく

石井 恵子

農に就き四十年の歲月流れゆき

機械も我も修理費かさむ

真夜中の蛙泣く声賑やかに

昼間の豪雨嘘のようなり

小雨降る傍目構わず草取れば

ひと際映える畑の作物

夜深き広い家での独り居は

音一つさえ気がかりとなる

吉田 モト

古い猫のあまいる仕草をそつと抱き
互いの淋しさ分け合ふ夕べ

吾ひと世終わらむとする卒路生く

短歌を拾いて杖とするかな

落雷の地響きあれど驚かぬ

卒路の身には怖いものなし

榎たらの木の若芽を噛めばほんのりと

春のいのちが口にひろがる

背なを押す師走の風によるよると

踏み張りされぬ齢となれり



啓蟄の季節となるも今朝まさに



強風なれば虫もひっこむ

花ふぶき我には巢立ちの寂しさや

袴姿の吾子は美し

公園のたんぽぽ摘みて来し幼な

抱けば甘き陽のにほいする

草花の種は結びてこぼれ落つ

次なる夏に命繋ぎぬ

爽やかな秋風に乗って響きくる

無邪気な児らの賑やかなこゑ

藤沼 緋紗子

俳句部門

大田原俳句会

古川 忠利

① 活動状況

昨年同様、会員数は十八名で活動しました。昨年度からの「新型コロナウイルス感染症」に振り回され、句会はどうにか行いましたが、その他の行事については実施できませんでした。

② 四季詠（今年の句会報より）

《新年》

向う側安らかにあり白障子

樹人

初日記開けば鶴の翼めく

忠利

初風呂や目地の白さと柚子の香と

逍遙

《春》

銀色のスプーンの掬う春愁い

かつ子

襦袢とれますますやんちゃ水温む

圭子

春泥に杖踏ん張るや黙のまま

和子

《夏》

桃の日や白寿の人の紅薄く

勝美

少年の声変りして更衣

健司

青春の弾む日のこと草いきれ

泉江

《秋》

宿坊に臥して銀河と曼荼羅図

青析

心いま宙を遊べり赤蜻蛉

吟子

九月早や友抱え来る今年米

智香子

どんぐりやはねて地球と戯れる

まさ子

《冬》

大げさに揃えしつまみ新酒酌む

小来川

霜除の黒きビニール蠢けり

加名恵

来年も確と芽ぶけよ霜囲

悟郎

炬燵にて客待つ村の雑貨店

晋一

北風をななめに払い杏子句碑

民恵

③ お仲間募集中

俳句に興味をお持ちの方よろしくお願います。

④ 会員投稿（今年の句会報より）

「投稿コーナー六月号より」

先達・川島南穂氏の俳句

中山 逍遙

走り根

走り根の噛み合ふところ清水湧く

神の住む森満月を押し上げる

花南瓜這わせて峽に人を見ず

（全部で8句）

昭和四十五年版栃木県文学選集を図書館で偶然みつけ、その中の南穂氏の句である。南

穂氏は昭和四十八年に「噴煙」を、五十七年

に合同句集「山椿」を、五十八年に遺族が「噴

煙以後」を出されているが、これはその前の

大田原俳句会発足頃である。他に同句会の中

村蛙仙、森曲豆、光石稲遊氏らも投稿されて

いる。そしてこの本を図書館に寄贈している

のが高田星愁氏であった。

川嶋南穂、高田星愁、田中キミ、そして現

在の代表古川忠利と脈々と大田原句会が続い

ていることは誠に喜ばしい限りです。

そして、四十周年にあたる令和六年には、

「公孫樹第四集」を発刊予定であり、今後ま

すます我が大田原句会をみんなで発展継続さ

せてまいりましょう。

◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇ ◇

半藤末利子の「硝子戸のうちそと」

井上 泉江

半藤末利子のエッセイを読みました。夏目

漱石の作「硝子戸の中」をもじった題名です。

漱石の孫である半藤末利子が夏目家エピ

ソードなど、漱石は猫より犬が好きだったと

か、鏡子夫人の女傑ぶりなど一族周辺のお話

が自由気ままな書きぶりで語られています。

漱石が生まれ終焉の地でもある新宿区が漱

石山房記念館を建設する際の整備検討会に出

席したり、完成後に記念館名誉館長に任命された件のお話などが、伸び伸びとした文体で、興味深く書かれています。

祖父が漱石、父上が松岡譲、そして今年亡くなられた半藤一利を夫に持つ著者のエッセイはさすがに魅力に溢れた作品です。

今までも半藤末利子のエッセイ集が何冊か刊行されましたが、人気があつてすぐに売切れています。

風の会句会

古川 忠利

① 活動状況

金田南地区公民館に於いて、毎月第二、第四水曜日、勉強会形式の自主講座句会です。会員十五名で、その日ばかりは俳句三昧の和氣藹々の勉強会的句会です。

年に数回、句会にて「俳誌ろんど」の主宰の直接指導がありました。新型コロナ禍により、句会は全て自主講座となりました。

② 句会報（十二月八日より）

おでん酒湯気の向こうで笑い顔 あきら
冬天や機影に音の追ひかける きみ
どの顔も笑い皺増ゆおでん鍋 えいた

明日出す手紙また読む霜夜かな かつ子

見え張って二人分買うおでんかな かほる

大正琴タンゴの曲に年忘 順子

梟の胸毛やはらか風を抱く 晋一

友弾む声なり津軽の雪の事 青蛾

二人居のはみだしているおでん鍋 比呂

おでん鍋みんな主役の顔をして 水葉

冬菜炊く母の手順に近づけり 未季

駅ごとの誰より先に乗る寒さ ひで子

寒暁の豆腐生れて沈みをり 青析

塵塚やあまたの地蔵枯野原 雅芳

芳醇を剥いて至福のラ・フランス 克美

③ 加入者募集中

俳句に興味をお持ちの方よろしくお願います。

秋桜の会（一年の振り返り） 森 加名恵

今年もコロナウイルスが蔓延する中、大田

原市生涯学習センターと佐良土交流センターの会場をお借りして通常の句会が出来ました。途中、一回の休会がありました。通信句会に切り替え行いました。ただ、密を避けるため吟行は、両句会とも中止せざるを得ず残

念でした。

仲間同士の交流は勿論ですが、出来るだけ

町の俳句大会には参加するように呼びかけ

して、今年は黒羽芭蕉俳句大会、並びに遊行

柳の俳句大会と軒並み入賞者が出て嬉しい限りです。ここにその記録を残すと共に皆さんの作品をご披露します。

黒羽芭蕉の里全国俳句大会（令和三年）

大高松竹選 特選

骨太の鮎にも似たる兜太の句 逍遙

大高松竹選 佳作

殺し掻き血の一滴の漆取る 逍遙

潮騒や棚田潤す青田風 耕里

細谷曉々選 佳作

万緑に一筋の道吸ひ込まれ 草秋

星朧もの言ひたげに問ひたげに ふみ子

昨日より水面を隠す青田かな 里都美

逞しきブナの裸木奥只見 明美

上棟の積み木のごとく春空へ 和子

高山れおな選 佳作

亀鳴きて禰宜の祝詞は本調子 一典

日記買ふ明日を闘ふために買ふ 加名恵

万緑に一筋の道吸ひ込まれ 草秋

遊行柳まつり全国俳句大会

星田一草選 特選

田一枚機械が植えて昼餉かな ふうみ子

星田一草選 佳作

校庭のぶらんこあれが初恋か ゆきえ

一村を埋め尽くさんや蕎麦の花 草秋

忘れたきこと思ひ出す寒夜かな 加名恵

飯野婦美代・速水峰邨選 佳作

一村を埋め尽くさんや蕎麦の花 草秋

秋桜の会 本部句会（九月）

二人して句を誦んずる夕月夜 恵子

物思ふ雑木紅葉に触れながら 幹子

雨の音秋海棠の重たげな 富子

日々の事わする怖さ夏終る 弥生

大南瓜大地に確と蔓伸ばす 耕里

空高し木洩れ日踊る石畳 絹女

鯛に急かされて立つ厨かな 節子

秋彼岸母は白寿となりけり 一典

草の中水引草の赤い線 溪月

小鳥来る伸び放題の木々に来る 純子

心に決めかの人と会ふ夕月夜 和子

宵月夜漸く雨戸閉めにけり 逍遙

稲の秋二階の窓に拡がれり 加名恵

秋桜の会 佐良土句会（九月）

十五夜や猫背伸ばして空仰ぐ 法子

学び舎の子等が案内の彼岸花 誠

鳳仙花菓子屋に寄りてさと土産 ふうみ子

退院の近き病窓夕月夜 義郎

読経の心地好き風秋彼岸 佐くら

園児らの引いて尻付く紅甘藷 晋一

長き夜や兄弟げんか思ひ出し 隆

愛猫の寿命尽きるや夕月夜 ゆきえ

八溝より昇る夕月川照らす 明美

真青なる空に遊びし柿落葉 草秋

ありがたき穏やかな日々秋彼岸 敏子

籠り居の今が幸せ夕月夜 加名恵

秋桜の会

上田 耕里

秋桜の会の仲間は、矢板市にあるシルバー

大学校北校の卒業生で、俳句部に所属してい

た仲間を中心に、長年の講師であります森加

名恵先生に師事し、大田原で活動しています。

月一回の句会の他、県内の名所旧跡を巡り

吟行会なども行なっています。

私は思うような俳句が出来ないで苦勞して

いますが、秋桜の会の皆さんは素晴らしい俳

句を詠んでいます。

私の里は山形ですが、俳人と言えば「奥の

細道」の芭蕉です。山寺では「閑かさや岩に

しみ入る蟬の声」、月山に登った時は「雲の

峯幾つ崩れて月の山」など、皆さんもよくご

存じの俳句を詠んでいます。

私も芦野にて「芭蕉忌やふとたちどまる東

山道」と詠ませていただきました。



第三十六回大田原文化協会美術展

美術部長 安達 信悟

第三十六回大田原文化協会美術展を十一月十二日から十四日の三日間開催しました。

昨年はコロナ禍、市役所本庁舎の市民ギャラリーで部門別に分けての分散開催で行いました。今年は二年ぶりに那須野が原ハーモニーホールで開催し、入口の看板も新調して、会員の皆さんの力作一六二点の一齐展示を行うことが出来ました。

美術展の出品数推移

部門	第31回	第32回	第33回	第34回	第35回	第36回
洋画	31	26	20	29	25	33
日本画	5	3	2	2	1	2
水彩画	12	11	9	17	9	13
写真	9	9	10	10	10	10
華道	29	25	29	22	12	17
色紙画	16	14	15	16	16	17
陶芸	16	20	20	16	20	20
書道	16	18	17	14	15	15
竹工芸	12	13	11	13	15	13
工芸	6	6	5	10	7	
彫刻	6	5	5	6	4	10
版画・切り絵		1		2	1	3
アレンジメント フラワー	9	10	9			
トールペイント				10		9
会員展示	158	150	143	157	135	162
招待展示	13	11	19	18		
合計	171	161	162	175	135	162

た。(部門別出品数は別表)

会場は新型コロナウイルス感染症感染拡大防止対策のため入場者の把握、検温、消毒、三密回避の徹底を図り、第一・第二ギャラリーとスロープでコンパクトに展示しました。

出展者の中には、コロナ禍による自粛で創作に集中出来なかったなどの声もありましたが多くの作品を出展して頂きました。

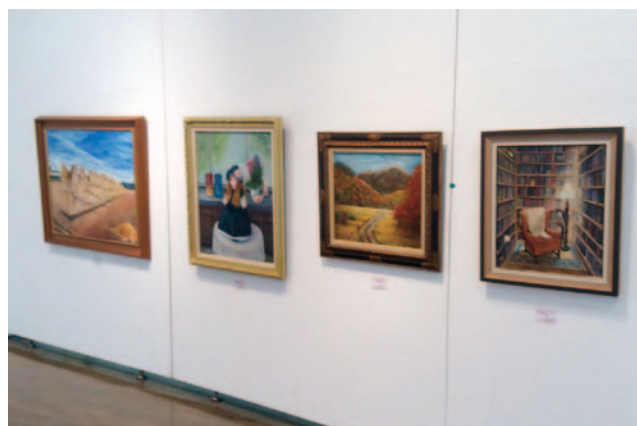
開催案内はポスター、はがき、市広報、よいちメールや市のツイッター・フェイスブック等のSNSで開催をPRしました。

また、下野・朝日新聞の紹介

記事を掲載していただいた事もあり、来場者は三日間で五百名弱と大変多くの方に大田原の芸術文化を鑑賞していただきました。

アンケートでは初めて来たという方が三十パーセントでしたが、来場者の八十パーセントが高齢者で、現役・家族づれ世代へ文化芸術への更なる啓蒙が必要かもしれません。

展示会場・展示方法に関しては、ハーモニーホール等での一齐展示が九十五パーセントと圧倒的でした。



寄せられた感想では「素晴らしい作品で楽しく目の保養になり感動した。また来たい」「大田原に沢山の芸術家がいらしたことに驚くと共に嬉しくなりました」「ツールペイントを初めて見て自分も挑戦したい」「作者の意図、狙いや書道の文字情報等説明書きがあると更に楽しい」「華道の花材が記載されると良い」等々の意見を多数いただきました。ご協力ありがとうございました。次回以降の参考にさせていただきます。開催にあたり文化振興課には大変お世話になり、ありがとうございます。また、美術部役員皆様のご協力に感謝いたします。

今年度から部員を年度毎の登録制として増員をはかり一五〇名と成りました。新しい分野の参加を歓迎致します。

来年の第三十七回文化協会美術展は十一月十一日から十三日の三日間、那須野が原ハーモニーホールで開催予定です。より多くの作品と多数の参加をお願い致します。





絵を描くこと

みず絵会 前島 恒夫

絵を描くことが子供のころから好きでした。終戦時には小学校三年生でしたが、旧奥州街道には大きい松並木があり枝ぶりが良く、よく描いたものです。

小学校高学年になると水彩画となり、特に花の絵を好んで描きました。菊の花を描くのが得意と思っていた六年生の時、武藤先生の指導で菊の花を水彩画で描き栃木県の展覧会に出展すると金賞に入選し、先生ともども大変喜んだ記憶があります。

中学生になって時折絵を描いては出展し入選していました。高校に進学し、文化部活動で美術部に所属し、今井先生の指導を受けていましたが、二年、三年となると進学勉強に追われ絵は無縁となり、その後社会人となってはまったく絵を描かなく

なり、時々美術館等に行き鑑賞する程度となっていました。

退職後、近所の知り合いの女性の先輩から絵を描いてみないかと誘われて入ったのが「みず絵会」でした。毎月第二月曜日午後と第四月曜日午後が学習会で毎月行ったものです。女性ばかりで皆先輩で美術学校を出られた人も参加していました。皆さん大変上手でした。

指導者は大田原高校の先生をやられた高野先生で、水彩画では県で第一人者でした。私も見様見真似で描きましたが、昔の感覚がどこにもなく思った様に描けず悩みました。まず、絵を描く事とモチーフに向かって自分なりに絵にすることが大切と思ひ描き続けてきましたが、絵は描けば描くほど難しく、自分の思う様には描けませんでした。

描いていると必ず壁に突き当たって悩み、どう努力すれば上

達できるかとも思ったこともあります。それでも描き続けてきていますが、老齢となり身体的に思うように動けなくなり色々な絵画を描くことも終わりかと思うこともあります。美しい物を見て感じると絵に描いてみたいと思います。この先、どの程度まで筆を持つことが出来るかと、思慮する今日この頃です。



令和三年度の報告

大田原油絵クラブ

蜂巣 貞美

大田原油絵クラブの令和三年度の活動をお知らせいたします。

緊急事態宣言中は一時休会したり、許される時は時短対応したりでの活動でした。

展覧会はハーモニーホールでの大田原文化協会美術展と栃木県芸術祭美術展に出品し、西地区文化祭は昨年引き続きコロナ禍のため中止となりました。

相変わらず会員の減少、高齢化が進んでいます。女性会員が入会され、熱心に毎回出席していただき、素晴らしい作品作りに挑戦しております。

今年度の成果は、講師の齊藤勝美先生が今年も日展に入選されました。会員ではお一人が県芸術祭美術展で招待作家として無審査で展示されました。

また、今年はまだひとり県展に出品して見事入選、入賞者や

審査員の先生方の作品と同じ会場入口の部屋に展示されました。本人も初めてのことで大感激しています。

我等が油絵教室は第一、第三月曜日、総合文化会館で夕方五時から齊藤先生のご指導の下で、楽しみながら力をつけてきており県展でも良い成果を上げることができました。

只今、小中学生の指導も行っております。午後五時から送迎も行います。

お問い合わせは蜂巣まで

☎090-7412-6757



日展入選作品 齊藤勝美



県展入選作品 蜂巣貞美



招待作品 山川喜世三

『健康寿命百年』
『虎(寅)ブル防止』

色紙水彩画 君島 真二

「残念千万」二年連続コロナ禍が収まらず、令和三年一月より四月迄休みに至った。

五月から赤堀公民館の利用の許可がおりて、現在に至っているのは公民館の助力のお陰である。

六月の描初は、水遊園にて、好天の中の写生で難しいガラス張りの建物等を描画した。昼食の蕎麦で英気を養い楽しみながら描いたのは写生冥利につきる。



箒川上流の塩原付近の風景

七、八月は自由画、モチーフは自分で持参しての好きな描画である。

九月は、那須塩原市関谷の箒川上流の金沢川堰での写生で、清流のせせらぎや那須の山々を描いた。昼食は名物の団子汁を食べながら楽しく帰館した。



また、九月は、初めての若き美女のモデルを描いた(代表絵)。画友の描いた素晴らしいモデルの絵は未完成だが、心のこもった絵ではないかな。



代表の絵



画有の絵

十月十日の大田原中学校での西地区文化祭も中止になった。

十一月十二日より十四日迄の大田原文化協会美術展(那須野が原ハーモニーホール)は、大変盛況に終わった。

十一月十三日には朝日新聞の栃木版に掲載された。



箒川上流での写生(講師)



虎(寅)の絵

十七名(男性七名、女性十名)による色紙画は、それぞれ個性があり、素晴らしかったとの評判だった。

十年以上続けていて、描く人が減るどころか少しずつ増えていることには励みとなるものである。

虎年は、何事にもチャレンジ精神が旺盛で人の心を惹きつける特徴がある。行動力を備えた年でもある。コロナ禍撲滅は、本年こそ実現できるかも!!

令和四年(二〇二二年)は虎(寅)年なので、十二、一月は、虎の絵と自由画(主にデッサン)を描く月とした。

二月一日より二月二十八日まで「トコトコおたわら」の一階西エントランス横シヨークース内で色紙水彩画の作品を展示した。

一人二点(虎の絵・自由画)を出品し多くの人が鑑賞してくれたと思われる。

令和四年四月から一年間のカリキュラムに則り恒例となった『絵画教室(色紙等) 水彩画』を開く。

本年も明るく楽しく助け合って個性豊かな描画を学習しようではないか(次年度は兎年だよ)!!頑張ろうぜ!!



「色紙水彩画作品展」



作品展前の勢揃い

大田原盆踊り唄保存愛好会

石井 小夜子

会の事務局として四十数年が過ぎました。一年中、揃いの浴衣を片付ける暇がないほどの出演依頼があり、楽しみながら活躍していました。しがしながら、与一まつりをはじめ、多くのイベントが中止になってしまいました。出演する機会もなくなり、年齢ばかり重ね踊り手も足腰が痛み出して、これからどうしようと考えている中、唄い手も声が出ないとか。

況が変わり、今後どうなるのかと心配しているのは、私だけではないと思います。夏になると、夜はどこかで盆踊りの太鼓や歌が聞こえてきて、うきうきとしたものです。最近の花火の音も聞こえなく、静かな夜になってしまいました。早く新型コロナウイルス感染症が終息することを祈るだけです。

参考までに昔からの愛好会行事とエピソードについて紹介させていただきます。

・毎年先頭で、最初の頃は八〇名位参加、徐々に減少
・ある年は、夕立で動きがとれず、本部に閉じ込められ、荒町の道路は約三〇センチくらいの深さの水が流れて、伏見屋の店の中へ流れ込み、ロータリーにとめて、演奏をしていたトラックが流されそうに

与一流し踊り

・毎年先頭で、最初の頃は八〇名位参加、徐々に減少

・ある年は、夕立で動きがとれず、本部に閉じ込められ、荒町の道路は約三〇センチくら

いの深さの水が流れて、伏見屋の店の中へ流れ込み、ロータリーにとめて、演奏をして

いたトラックが流されそうに

なり、大騒ぎになりました。

・踊りの途中で大雨になり、びしょびしょになりながら神明町の公民館までたどり着きました。地区の方が、ストーブを焚いて待っていてくれました。

・踊り手が少なくなり、愛好会はロータリーで丸くなりお手本として踊ることになりました。

塩原流し踊り

・毎年九月に神谷旅館に一泊して、流し踊りに参加していました。

江刺甚句祭り

・招待されて、市のバスで奥州市江刺の甚句祭りに参加。一泊で先頭で踊らせてもらい、

市の幹部も参加しての懇親会をして、得意の踊りやら歌やらで交流を深め、愛好会の芸

能大会にはこちらへ招待して

楽しんでいました。

・櫓、樽を新調して記念式典を

してお祝いしました。あまり使用できないまま、拠点である公民館を壊すことになりました。追いつけをかけるようにコロナ禍で何もできなくなり、やむを得ず、櫓も解体してしまいました。

清風園祭り

・毎年お年寄りとお踊りして楽しんでいました。

西部地区文化祭

・盆踊りで参加

赤堀夏祭り 協力

市産業文化祭

・ステージ部門で踊り、唄、その他で参加

・歳末助け合い

・踊り、唄、その他で参加

主だった行事を書いてみました。

コロナ禍が終息したら練習も再開しますので、ぜひ参加をお願いいたします。

四周年記念事業

剣詩舞道は如何？

遊月流吟舞会恵月会

三浦 恵月

全く、参りました。新型コロナウイルス感染症とやらで約二年間振り回されました。まだ解禁にはなりません、少しずつ光が差し込んできた感じがします。

私は剣詩舞の趣味が講じ、現在は指導者の立場になりました。ぼーっとしないですみ、生きがいを感じています。心のビタミン、サプリメントです。

剣詩舞道は、日本の伝統文化です。私たちは常に仲間を求めて、如何に理解して頂けるか、模索している状態です。

大田原文化協会ステージ部門、本年も歳末助け合い市民芸能大会は開催いたしました。有り難いことに観客を入れ、九社中の皆さん、ハツラツとしていました。

舞台には心と体の緊張という宝があります。二年もの間、交



流はありませんでしたが、風格とパンチの効いたステージ部門長、聡明な文化協会長の下、皆さんの踏ん張りで繋がっていることを改めて思いました。

剣詩舞に出会えて楽しく、嬉しく、幸せを感じています。

最近、さらに後継者を育成していきたい…と思う日々です。

ステージ部門活動報告

ステージ部門長

花柳 喜乃治

新型コロナウイルス感染症の影響で活動が思うようにいかない会が多数ある中、十二月四日(土) 大田原市総合文化会館において、「第五十八回歳末助け合い市民芸能大会」を開催致しました。

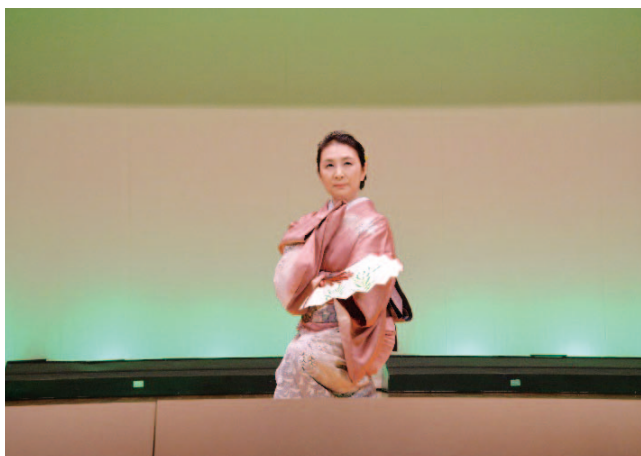
昨年はビデオ撮影に変更して、YouTubeにて配信し多くの方に視聴して頂きました。

今年も多少の規制がある中、出来る形でやりましようとなり、お客様を動員して開催することが出来ました。関係者の皆様に心より感謝致します。

また、十一月二十三日(火・祝)には、栃木県芸術祭民謡民舞会、民舞の部にステージ部として大田原小唄で出場し、初参加で、準芸術祭賞を頂きました。日頃より稽古に励んできた成果が出て、より一層大きな励みになりました。



各会派の活動活性をしながらステージ部門として郷土芸能の維持継承も大切な活動と思っております。





盆栽園芸部門

盆栽・園芸部長 平山 正彦

令和三年度の盆栽園芸部門の活動は、高齢者ばかりの団体のため新型コロナウイルス感染症対策を第一に考えて異例の展開となった。

まず、例年一月開催の総会（第五十回那須支部通常総会）を「書面表決」方式により実施し、全議案とも書面表決者全員の賛成を得た。

二月に東京都美術館で開催された第九十五回国風盆栽展では、二名の会員が見事入選を果たしたが、見学は見送った。

事業として日帰り研修旅行を計画していたが、やはり新型コロナウイルス感染症感染対策として実施を見送った。このような中ではあったが、昨年度実施を見送った支部展を今年度は実施することとして会場を探した結果、那須野が原公園展示場で大田原盆栽勉強会との共催で開催出来ることになった。

会期は七月九日（金）から十一日（日）までの三日間に決まり、出展者を募った結果、支部会員十八人、勉強会二人の二十席となった。出展内容は、那須五葉松を主とした松柏類が十四席と一番多く、ヤマモミジなどの雑木類が五席、夏の風情を醸し出す竹の盆栽が一席だった。この中には小さいながらも的確に培養された小品盆栽が六席あった。

どんなイベントでも事前のPRがあると無いとでは来場者に天と地の差が出来てしまう。新聞に盆栽展の記事を載せてもらおうと会期前日に取材に来てもらったが、記事が掲載されたのが最終日であったため、二日間は公園に来た人が寄っただけで、三日目に新聞を見てきた来場者が少し多かった。新聞には掲載記事の優先度があるので致し方ない。

今回の盆栽展は今後の盆栽展のあり方を考える良い機会になった。

会員が七十数名と大勢いた十年前は出展希望者も多く広い会場を必要としていたが現在は会員の高齢化が進み、年々会員が減少してきている。それに伴い出展希望者も減少し、体力を必要とする会場作りもままならない状況になってきている。このような状況下で会場設営作業が容易にできる那須野が原公園展示場は願ってもない会場だった。

役員会で今後の支部展会場に



ついて協議したところ満場一致で那須野が原公園展示場に決まった。

展示場は各種団体が使用しており、なかなか空きが無いので盆栽展に最もふさわしい秋季の会期を選ぶことはむずかしい。七月に開催できたのも、大田原盆栽勉強会が押さえていたものに支部が共催という形で開催できたものである。

また、十二月十日（金）から十二日（日）まで那須野が原公園展示場を会場として開催された栃木県支部連合会盆栽展には那須支部として六席参加した。

盆栽愛好家にとって、手塩に掛けて培養してきた盆栽の晴れ舞台である展示会は、無くてはならないものである。今年度支部展を開催できたことは大変喜ばしいことであった。



藤井聡太棋士五冠達成

大田原市将棋愛好会

矢板 清勝



藤井聡太棋士は愛知県瀬戸市出身、中学校二年生で史上最年少の十四歳二か月でプロ入りし、その後、公式戦最多連勝記録（二十九連勝）に始まり数々の記録を達成してきました。将棋界では例がなかったほどの急成長ぶりです。

集中力の高さと予想外の指す精神的な強さがある棋士です。

史上初となる

タイトル四冠対三冠

藤井聡太四冠（竜王・王位・

叡王・棋聖）十九歳が最年少五冠を懸けて渡辺明三冠（名人・棋王・王将）三十七歳に挑みました。第七十一期ALSOK杯王将戦七番勝負の第三局が令和四年一月二十九日、三十日の両日、大田原市黒羽向町のホテル花月で開かれました。藤井四冠の本県での対局は初めてで、大田原市将棋愛好会の小中学生や市内の将棋ファンの注目が集まりました。これからも藤井棋士の頑張りに期待しています。



早く自由に活動を

茶道部 瀬尾 清子

今年も新型コロナウイルス感染症の影響で活動が制約され、茶会も安全を第一に、この二年間中止にさせていただきました。

年に一度のお茶会を楽しみにして下さっている方々には、申し訳なく思っております。

自宅のお稽古もマスクをして私の流派「大日本茶道学会」の道場制の中に「室に入るには、まず手洗い口漱ぐべし」とありますが、その後にアルコール消毒もしてから部屋に入ってもらいます。

また、「点茶中は挨拶応答のほか、絶対無言たるべし」とありそれも実践しております。令和四年こそは新型コロナウイルス感染症が収まりそれぞれの活動が制約されなくなることを願っています。

大田原文化協会会報誌「大田原文化」が第三十号の発行ということで広報の方々にお礼と感

謝を申し上げます。

大田原文化協会では会員を募集しています！

活動に興味のある方はお気軽にお問い合わせください。

年会費 500円（活動費が別途かかる場合があります）

総合文化会館の使用料無料、年に一度の会報発行の特典があります。

お問い合わせ先：0287-23-3129（大田原市文化振興課）

大田原文化協会事務局より

(1)文化協会事業報告

令和3年

4月16日 理事会

(総合文化会館)

5月21日 評議員会

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、書面議決

7月9日～11日 夏季盆栽展

(那須野が原公園)

9月30日 会報編集会議

※緊急事態宣言発令期間中のため、書面にて開催

11月12日～14日 美術展

(ハーモニーホール)

12月4日 歳末助け合い

市民芸能大会

(総合文化会館)

令和4年

1月17日 会報編集会議

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、書面にて開催

3月3日 会報編集会議

※まん延防止等重点措置期間中のため、書面にて開催

3月25日 会報編集会議

(大田原市役所)

(2)会員加入状況

大田原文化協会の令和4年2

月末日現在の会員数は31団体で329名となっています。

(3)各部事業費の配分について

部	納入者数 (A)	納入金額 (A × 500円)	配分数 (A × 800円)
文芸	65	32,500	52,000
美術	150	75,000	120,000
ステージ	65	32,500	52,000
囲碁将棋	5	2,500	4,000
盆栽園芸	40	20,000	32,000
茶道	4	2,000	3,200
合計	329	164,500	263,200

大田原文化協会 令和3年度役員一覧

No.	役職	氏名	専門部	構成部門
1	会長	田中 和夫	ステージ	吟詠
2	副会長	安達 信悟	美術	彫刻
3	〃	矢板 清勝	囲碁・将棋	将棋
4	〃	西宮 詔夫	美術	洋画
5	〃	藤沼 久子	文芸	短歌
6	〃	平山 正彦	盆栽・園芸	盆栽
7	会計	望月 洋子	ステージ	三味線
8	〃	山本 和子	美術	華道
9	理事	川上 鳴石	美術	書道
10	〃	金沢 裕司	美術	写真
11	〃	花柳 喜乃治	ステージ	日舞
12	〃	瀬尾 清子	茶道	茶道
13	〃	前島 恒夫	美術	水彩画
14	〃	井出 賢	美術	竹工芸
15	監事	伴 敏美	盆栽・園芸	盆栽
16	〃	西川 しず子	ステージ	日舞
17	〃	古川 忠利	文芸	俳句

(4)役員名簿

専門部

専門部	役 職	氏 名	構 成 部 門
文芸部	部 長 副 部 長	藤 沼 久 子 古 川 忠 利	短歌 俳句
美術部	部 長 副 部 長	安 達 信 悟 西 宮 詔 夫	洋画 彫刻 日本画 華道 書道 写真 工芸 竹工芸 陶芸 水彩画 アレンジメントフラワー
ステージ部	部 長 副 部 長	花 柳 喜乃治 望 月 洋 子	吟詠 民舞 演劇 剣詩舞 日舞 邦楽 ダンス 洋舞 洋楽 郷土芸能 コーラス 民謡 民俗芸能 謡曲 新舞踊
囲碁・将棋部	部 長	矢 板 清 勝	囲碁 将棋
盆栽・園芸部	部 長 副 部 長	平 山 正 彦 伴 敏 美	盆栽
茶道部	部 長	瀬 尾 清 子	茶道
広報部	部 長	古 藤 越 岩 阿久津 平 川 沼 久 子 沼 沼 てつ子 上 知 子 津 正 弘 山 正 彦	文芸部 (俳句) 文芸部 (短歌) 美術部 (洋画) 美術部 (洋画) 美術部 (竹工芸) 盆栽・園芸部 (盆栽)

編集後記

広報部長 古川 忠利

令和二年に引続き、令和三年も新型コロナウイルス感染症に翻弄され、文化活動も影響を受けています。

その様な中でも、美術部門の会員数が増加していることはうれしい限りです。

また、美術展、盆栽展、観客を入れた市民芸能大会等、進化の一年となりました。そして、「大田原文化、第三十号」が発行する事が出来ました事は会員皆様の熱意ある寄稿の賜物であり、御礼申し上げます。

最後に会報発行に際し文化振興課の皆様の大なるご支援に感謝すると共に、会員の皆様の更なるご活躍をご祈念いたします。



令和3年度広報



令和3年度
会報「大田原文化」第30号

発行日 令和4年3月31日

発行者 大田原文化協会

会長 田中 和夫

編集 広報部

事務局 大田原市教育委員会事務局文化振興課

電話 0287-23-3129

印刷 株式会社 松井ピ・テ・オ・印刷